新聞の切り抜き記事から

研究員　井原　慶一

当センターの新聞切抜きファイルから主な記事を抜粋して紹介します。

□第35分冊（2018年1月12日～2018年5月2日）

舗装談合8億円課徴金　公取委　9社に納付命令へ

成田空港や東京都道などの舗装工事の入札で談合したとして、公正取引委員会は、独占禁止法違反（不当な取引制限）で道路舗装業大手のNIPPO（東京）や前田道路（同）など９社に計約８億円課徴金納付を命じる方針を固めた。

（読売１/12）

飯島氏が３選　大多喜町長選　20年ぶり無投票

任期満了に伴う大多喜町長選は16日告示され、無所属で現職の飯島勝美氏(73)＝２期＝だけが立候補を届け出て、無投票で３選が決まった。同町長選の無投票は1998年以来20年ぶり。

（千葉日報１/17）

平野氏は再選　長南町長選

任期満了に伴う長南町長選は16日告示され、無所属で現職の平野貞夫氏(66)＝１期＝以外に立候補の届け出はなく、無投票で再選が決まった。同町長選の無投票は2006年以来12年ぶり。

（千葉日報１/17）

木更津に電子地域通貨　市、信組・商議所と連携

木更津市は24日、君津信用組合（同市）や木更津商工会議所と連携し、市内だけで使える電子地域通貨「アクアコイン（仮称）」を導入すると発表した。スマートフォンのアプリを活用したシステムで、ボランティアの参加者などに提供される「行政ポイント」も使えるのが特徴。職員らによる実証実験を経て、今秋の本格導入を目指す。

（朝日１/25）

匝瑳市長　太田氏３選　前回に続き無投票

匝瑳市長選は28日に告示され、無所属で現職の太田安規氏(73)＝自民・公明推薦＝のほかに立候補の届け出がなく、前回の2014年に続く無投票で太田氏の３選が決まった。

（朝日1/29）

米、「核なき世界」放棄　新戦略発表
運用拡大へ弾頭小型化

トランプ米政権は２日、中期的な核政策の指針である「核戦略見直し」（NPR）を発表し、オバマ前政権が目指した「核なき世界」の理想を事実上放棄した。非核攻撃への報復にも核を使うことがあり得ると明示したほか、核兵器を本当に「使う」と敵国に思わせるため爆発力を抑えた小型核兵器の開発も明記。冷戦後から米ロが続けてきた核軍縮の流れに逆行する新方針となった。

（朝日2/4）

「辺野古反対」苦境に　名護市長に「移設容認派」

沖縄県名護市長選は、米軍普天間飛行場移設計画を事実上容認する新顔が初当選した。現職とともに移設に反対してきた翁長雄志知事には大きな打撃。

（朝日2/6）

千葉市発注工事　官製談合容疑
土木事務所長らを逮捕

県警捜査２課は６日、千葉市発注の陸橋補修工事で未公開情報を入札前に漏らしたとして同市緑土木事務所長、内山恵市容疑者(60)＝同市若葉区多部田町＝を官製談合防止法違反容疑で、その情報で不正に入札したとして同市中央区の建設会社「伊藤工務店」社員、池田厚美容疑者(70)＝同市中央区南町３＝を公契約関係競売入札妨害容疑で逮捕した。

（毎日2/7）

開票数足りず白票水増し　甲賀市幹部
確定後発見　票を焼却

昨年10月の衆院選をめぐり、滋賀県甲賀市で滋賀４区の開票作業中に数百票が足りなくなり、同市総務部幹部３人が白票扱いで処理する不正があったことが分かった。関係者によると、３人は後から見つかった投票済み用紙を隠し、このうち１人が焼却処分をしていたという。滋賀県警は公職選挙法違反などの疑いがあるとみて、事情を聴いている。（朝日2/8）

奨学金破産　延べ1.5万人
５年で親族半数　連鎖招く

国の奨学金を返せず自己破産するケースが、借りた本人だけでなく親族にも広がっている。過去５年間の自己破産は延べ１万５千人で、半数近くが親や親戚ら保証人だった。（朝日2/12）

自治体採用、競争率最低
16年度6.5倍　民間志向で受験者減少

全国の都道府県と市区町村が2016年度に実施した職員採用試験の競争倍率は平均6.5倍で、記録のある1994年度以降で最低だったことが11日、総務省の調査で分かった。景気回復で民間企業の人気が高まり、受験者が減っているためで、合格後の採用辞退も目立った。（日本経済2/13）

公立校副校長・教頭の勤務時間
過労死ライン超67％

県教育委員会は、教員の勤務実態に関する調査結果を発表した。超過勤務が常態化し、国の「過労死ライン」に相当する週60時間を超えた勤務割合は、副校長・教頭が67.1％、教諭らが35.6％に上り、「多忙化」が浮き彫りになった形だ。県教委は「業務改善に向けた具体的な取り組みを検討したい」としている。（朝日2/18）

佐渡氏が３選　四街道市長選

任期満了に伴う四街道市長選は18日投開票され、現職の佐渡斉氏⑭＝無所属＝が元市議の広瀬義積氏⑬▽元派遣社員の山田耕史氏㉚―無所属新人２人を破り、３選を果たした。（毎日2/20）

東京理科大薬学部野田から都内移転　25年春

東京理科大学は、葛飾キャンパス（東京都葛飾区）を拡充し、野田市の野田キャンパスにある薬学部を2025年４月に移転すると発表した。（朝日2/24）

移住者に奨励金　神崎町が方針

移住してくる人を増やそうと、神崎町は４月から「移住・定住奨励金」制度を新設する方針を決めた。７日開会の定例町議会に提出した新年度一般会計当初予算案に、関連事業費計610万円を計上した。町の人口は約6,200人で、町は「若年世代に来てもらい、人口増につながれば」と期待している。（読売3/8）

新婚夫婦に最大24万円　野田市、若者の定住
促進へ　家賃や引っ越し費用補助

野田市は40歳未満の新婚夫婦を対象に、家賃や引っ越し費用など最大24万円を補助する支援事業を実施している。新生活に伴う経済的な負担を軽減することで、若者の定住促進につなげるのが狙い。今月末まで受け付ける。（千葉日報3/9）

木更津市長に渡辺氏再選

任期満了に伴う木更津市長選は18日告示され、無所属で現職の渡辺芳邦氏㊸＝自民、公明推薦＝のほかに立候補の届け出が無く、無投票で渡辺氏の再選が決まった。市選挙管理委員会によると、1947年の公選制による第１回市長選以降、無投票は初めて。（千葉日報3/19）

指定廃棄物仮保管　長期化不安と怒り

東京電力福島第一原発事故に伴う汚染焼却灰などの指定廃棄物（放射性セシウム濃度が１㌔当たり8,000ベクレル超）が、各自治体に仮保管されたままになっている。国は県内１カ所に集約する処分場候補地として千葉市の東電千葉火力発電所を選んだが同市が拒否し、こう着状態が続く。仮保管が長期化して事実上固定化されかねない事態

に、住民らは不安や怒りを隠さない。（毎日3/29）

子ども食堂2,286カ所に急増
「貧困対策、交流の場」運営団体調査

地域の子どもたちに無料や低額で食事を提供する「子ども食堂」が全国2,286カ所で開かれているとの調査結果を、運営者の団体「子ども食堂安心・安全向上委員会」が３日発表した。子ども食堂の名が使われ出したのは５～６年前からで、ここ数年で爆発的に広がったものとみられる。同委員会は「各小学校区ごとに１か所の開設が望ましく、官民挙げての取り組みが必要だ」と訴える。

（毎日4/4）

固定資産税　新設備は免除　千葉市方針
今年度から３年

千葉市は、中小企業を対象に今年度から３年間、生産性向上のため新たに導入した設備にかかる固定資産税を免除する方針を決めた。老朽化した設備の更新を促し、人手不足の解消にもつなげる狙いで、県内初の取り組みという。（読売4/5）

石井氏無投票４選　南房総市長選　３市長選告示

任期満了に伴う東金、南房総、山武の３市長選が８日、告示された。南房総市長選は現職の石井裕氏(52)以外に立候補の届け出はなく、３回連続の無投票で石井氏の４選が決まった。（毎日4/10）

多古町長に所氏　空港活用などを訴え初当選

任期満了に伴う多古町長選は８日投開票され、新人で元町議の所一重氏(53)＝自民推薦＝が現職の菅沢英毅氏(73)を破り初当選した。（毎日4/10）

地銀、23県で単独存続困難　金融庁試算
千葉は「２行可能」

金融庁の有識者会議は11日、地方銀行が抱える課題をまとめた報告書を発表した。人口減少などによる経営環境の悪化で地銀が１行しかなくても単独での存続が難しい地域が23県あると試算。収益の確保で県境を越えた再編を含めて選択肢になるとしている。公正取引委員会の承認が得られず延期になったふくおかフィナンシャルグループ（FFG、福岡市）と十八銀行（長崎市）の経営統合も認めるべきとした。（千葉日報4/12）

東金市長に鹿間氏　前嶋氏破り初当選

任期満了に伴う東金市長選は15日投開票され、元千葉市職員の鹿間睦郎氏(67)が、前市議の前嶋里奈氏(53)＝自民推薦＝との無所属・新人同士の一騎打ちを制し初当選した。（千葉日報4/16）

山武市長に松下氏　新人同士の一騎打ち制す

任期満了に伴う山武市長選が15日投開票され、無所属で前県議の松下浩明氏(57)＝自民推薦＝が、無所属で元市議の小川一馬氏(63)との新人同士の一騎打ちを制し、初当選した。（千葉日報4/16）

栄町長選で岡田氏３選

栄町長選は、現職の岡田正市氏(70)＝無所属＝が、新人で私立通信制高校副校長の中谷稔氏(51)＝同＝を破り３選を果たした。（毎日4/23）

接戦受け止め真摯に
香取市長選　宇井氏が４選

香取市長選は、いずれも無所属で現職の宇井成一氏(58)が、新人で元市議の伊藤友則氏(45)＝自民推薦＝を接戦の末、破った。（毎日4/24）

市川市長選「変革の力が勝利に」
村越氏、再選挙で初当選

市川市長選の再選挙は22日に投開票され、無所属新人３人が争った結果、元衆院議員の村越祐民氏(44)＝立憲民主、民進、共産、社民、自由、市民ネット推薦＝が、元衆院議員の田中甲氏(61)、前県議の坂下茂樹氏(43)を破り、初当選した。

（千葉日報4/24）

＜以下次号へ＞